オペレーティングシステムイントロダクション

田浦健次朗

オペレーティングシステム(OS)

- ◆計算機を動かすための基本ソフトウェア
- ◆ 実例
 - Windows, Linux, Solaris, BSD, Mach, ...
 - Mac OSはBSDがベース
 - AndroidはLinuxがベース
 - Windows以外の多くのOSがUnixというOS の子孫

OSを学ぶことで見える...

- ◆(言語中立な)実用プログラムの基本
 - プロセス, スレッド, ファイル, ネットワーク, ...
- ◆ 効率的なプログラム、ダメなプログラム
 - 休眠待機 vs. 頻忙待機
 - ページング、スラッシング
 - キャッシュ, 先読み
 - mmap vs. read/write

OSを学ぶことで見える...

- ◆ 一見不思議な機能の実現方法
 - ネットワークファイルシステム
 - 仮想マシン、コンテナ
- ◆ 未来のOS/コンピュータの設計(根拠)
 - 遅延 < 1 μs のネットワーク
 - 遅延 ≈100 ns の不揮発メモリ(disk)

OSの役割

- ◆ コンビニとしてのOS
 - ・計算機資源の抽象化, 仮想化
- ◆ 警察としてのOS:
 - ・プロセス間の隔離、計算機資源の管理

OS≈コンビニ

◆ 抽象化

- 生のハードウェアを使うのは難しい(e.g., ディスクやネットワークの入出力)
- · OSがより「簡便に使える」ように関数群を提供

◆ 仮想化

本当は複数(多数)のプログラムで資源を共有 しているのだがそれを意識しなくてよい(e.g., CPUやメモリ)

OS≈警察

- ◆プロセス間の隔離
 - 私のプログラムがあなたのプログラム中のデータを盗み見たり、破壊したりできない
 - あなたのプログラムがネットワーク・ディスクから うけとるべきデータを私のプログラムが横取りで きない
- ◆計算資源の管理
 - 私のプログラムだけがCPUやメモリを独占利用 することはできない

システムコール: OSとアプリケー ションのインタフェース

- ◆ アプリケーションは
 - システムコールを呼び出すだけで, 面倒な仕事(入出力, CPU割り当て, メモリ管理, etc)を実行できる (コンビニ的側面)
 - システムコール ≈ コンシェルジェ
 - システムコールを呼び出さないと, 資源(CPU, メモリ, ディスク領域, etc.)を勝手に利用できない(警察的側面)
 - ・システムコール ≈ 門番

警察としてのOSをどう実現するか?

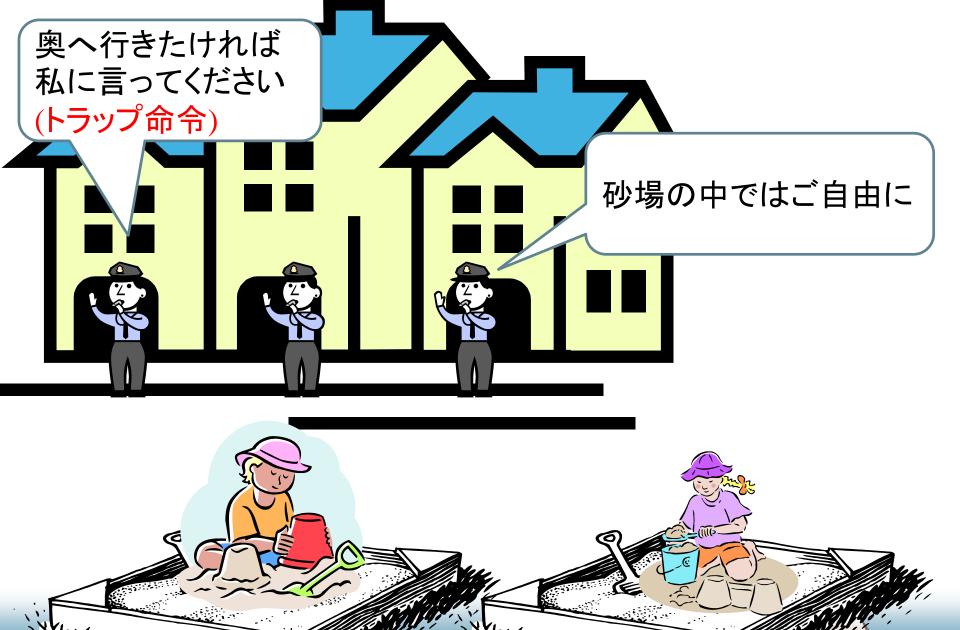
- ◆ 例: ファイルを読み書きするシステムコール
 - open, read, write, ...
- ◆ コンビニ: open, read, writeを通してディスク上のファイルにアクセスできる
- ◆ 警察: open, read, write, etc.を通してしかファイルにアクセスできない
 - どう保証するかは自明ではない
 - ディスクへアクセスするのも所詮はプログラム。OSの動作をそのまま真似すれば読めるのでは?

(警察実現のための)CPUの仕組み特権命令,特権モード

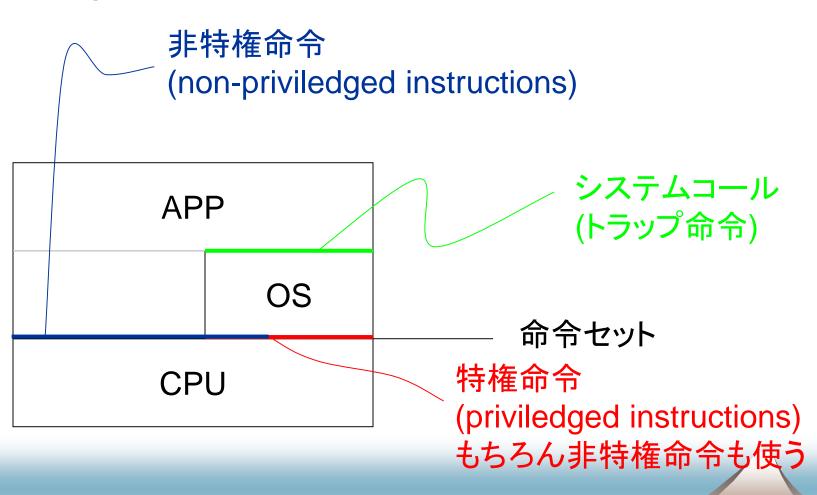
- ◆命令には2種類ある
 - 非特権命令と特権命令
- ◆ CPUの動作状態にも2種類ある
 - ユーザモード, スーパバイザ(特権)モード
- ◆ どちらもCPUによってはさらに細分化する 場合もある
- ◆特権命令は特権モードでのみ実行可能
 - ・ 入出力命令, 一部のメモリ領域へのアクセス

警察実現のためのCPUの仕組みトラップ命令

- ◆「特権モードへ移行 + 特定番地へジャンプ」 」する命令
 - ≈ 門番のいる門を通って表玄関へ誘導される
- ◆これはユーザモードで実行可能
- ◆ 「特定番地」を決めるのは「割り込みベクタ」と呼ばれるメモリ上の表
- ◆割り込みベクタを設定するのは特権命令



警察としてのOSの仕組み



OSの機能概観

- ◆ スレッドとプロセス(CPUの抽 象化・管理)
- ◆ 仮想記憶, アドレス空間(メモリの抽象化・管理)
- ◆ ファイルシステム
- ◆ プロセス間通信(ソケット)
- ◆ 認証とセキュリティ

